

貨物トラックの安全な運行環境に関する研究

嶋本 宏征 研究員

1. 研究の背景と目的

近年の交通事故件数減少傾向の中、大型トラックの関与する交通事故は悲惨な事態を招く可能性が高く、道路利用者の安全を脅かす存在となっている。中でも、居眠り運転や過労が原因のトラック事故は、死亡・重傷事故に至る割合が高い傾向がある。このような、トラック運転手の過酷な労働環境を背景とした交通事故の問題は、諸外国でも見られる社会的課題のひとつである。

我が国の貨物自動車運送事業は、1990年物流二法施行から始まった規制緩和（参入規制撤廃や運賃自由化）の影響をはじめ、燃料価格高騰、景気低迷による輸送需要低迷など、厳しい環境にある。このような中、トラック輸送産業の大きな課題として「安全確保」、CO2排出量抑制などの「環境負荷低減」、運転手の高齢化や労働環境悪化などを原因とした運転手不足等「持続性」の問題を抱えている。

このうち安全の取組は、スピードリミッターの設置義務付け等の「車両」に関するもの、飲酒運転や路上駐車等の罰則強化等の「交通管理」に関するもの等の安全規制が強化され、一定の効果が出ている。

本研究は、「人」が原因となるトラック運転手の疲労運転、長時間運転、高ストレス運転等を招く背景にある社会的要因に焦点をあて、貨物自動車運送事業の9割を占める一般貨物自動車運送事業を対象に、背景要因を探り改善方策を検討することを目的とする。本報告では、このうち課題構造の解明を中心に報告する。

2. 施策レビュー

トラック運送業の安全を確保するための施策として、運送事業者の運行の安全確保を監視するものと、荷主ー運送事業者、あるいは元請事業者ー下請事業者間における上位者（仕事を出す側）の圧力を監視する施策がある。

例えば、鉄道やバス等の旅客事業も含む運輸事業者が安全管理体制を構築することを規定している、運輸安全マネジメント制度については、現行の義務化対象範囲が限定的であるといった課題がある。また、この他の制度についても概要を示し実効性の観点から実施体制や枠組み等の課題を指摘する。

3. トラック事故の要因となる社会的背景

トラック輸送産業の安全の問題は、規制緩和後の参入事業者増加と運賃届出制による価格自由化による過当競争が原因であると言われている。これについてマクロデータを用いて、規制緩和の影響事象を検証し、トラック運転手の労働時間増加との関係を示す。また、影響のいくつかは必ずしも規制緩和のみによるものではないことを示す。

次に、規制緩和以外の社会的背景として、同時期の1990年代の企業経営の効率化の動きに着目する。そのひとつとして運賃低下の原因として指摘される多重下請構造の問題がある。これは、大手製造業などの荷主企業が自社内に輸送部門を保有していたものを、輸送需要変化に伴うトラックや運転手等の固定経費負担リスクを回避するため資本調整し、外部から必要分だけ調達するようになった結果と考える（実運送事業者も同様に輸送需要が低い水準に資本を調整し超過時には外部調達）。この多重下請構造に加え、社会的背景として荷主の商慣行に着目し、トラック運転手の過労運転との要因関係を述べる。

4. まとめと今後の課題

規制緩和後の事業者間競争激化と経営効率化による「価格競争」は、「安全の責任」を下請事業者等の弱い立場に押し付け、危険を黙認する構造を形成してきたと考える。今後は、多重下請構造を有する他産業の安全責任と比較分析し改善施策を提言する予定である。